



# 浜田タイムス

酒田市立浜田小学校

平成30年5月15日

No. 3

校長 渡邊 幸二

## 浜田っ子 大活躍!!

5月13日(日)に、光ヶ丘陸上競技場で酒田市小学校陸上競技記録会が行われ、本校児童も6年生中心に18名が参加しました。この大会に出場するため、子どもたちは放課後や早朝練習を約1か月間がんばってきました。詳しい記録をお知らせすることはできませんが、以下の種目で見事入賞するなど、昨年に引き続き大活躍を見せてくれました。

私は、木曜日の朝に行われた壮行会で、選手の子もたちには最後まであきらめずに自己ベストを目指しがんばることを伝えました。そうは言っても、緊張の中、またいつもと違う雰囲気の中での試合ですので、なかなか練習以上の実力を出すことはできません。そんな中でも、自分の力を出し切れるよう、特に次のような話をしました。この話は始業式の時の話の続きのような話です。



1 + 1 は、算数では普通は「2」です。しかし、この1 + 1 の答えを「3」にも「5」にもできます。つまり、これまでの練習のたし算を大きな成果にする方法があります。

まず、「自分はできる!」と言い聞かせることです。たくさん練習してきたので自信をもって、「目標の〇〇メートルが絶対跳べる!」「〇分〇秒を切る!」というように強く自分に言い聞かせるのです。そうすることでいつも通り、あるいはそれ以上の力を発揮できるようになります。

もう一つの方法は、仲間が出場している時、チーム浜田としてテントの中で精一杯応援することです。遠くで競技していてもその思いは必ず届きます。ですから、選手でない、ここにいるみなさんも、大会の日はどうか選手のみんなが活躍するよう応援する気持ちを持ってほしいなあと思います。

そうすることで、1 + 1 が3にも5にも10にもなります。

きっと選手の強い思いが、チームとしてのみんなの結束力が、今回の好成績をもたらしてくれたのかもしれない。また、入賞こそ逃したものの自己ベストを出した選手も、どうか胸を張ってほしいと思います。中には思うような結果を残せなかった選手もいますが、今回の経験をプラスに変えられるよう、つまりどうしたらいろんな場面で結果を残せるようになるかを考えてほしいと思います。そうすることで、きっとうまくいった人たちより強い自分を創り上げることができることでしょ。

- ◇小学5年男子100m 第1位 14秒41  
5年 S.Yさん
- ◇女子ジャベリックボール投げ 第1位 38m88cm  
5年 K.Tさん
- ◇男子走り高跳び 第1位 1m23cm  
5年 I.Kさん
- ◇小学女子100m 第1位 14秒33  
6年 O.Mさん
- ◇女子4×100mリレー 第6位 1分00秒83  
5年 S.Kさん 6年 O.Mさん  
6年 K.Yさん S.Rさん T.Yさん

## 避難訓練って!?

今日は第1回目の避難訓練を行いました。今回は火災の場合の訓練です。

さて、どの学校や保育園などでも行われるこの「避難訓練」は、何のために行われるのでしょうか。また、どのようにして行われているのでしょうか。

まず避難訓練の目的ですが、当然ですが、火災や地震などの災害から自分の身を守ることができるようにするためです。ですから、そんな災害を想定し、そういう時どのように避難すればよいかをくり返し訓練してきました。

ところが、3.11の東日本大震災で明らかになったように、これまでの避難訓練が本当に実際の場で役立つのかも一度考えてみる必要が出てきました。特に、先月に判決が出された大川小の仙台高裁の判決は、学校に災害時の安全確保のマニュアルをさらに見直すよう促すものでした。

これまでも中央で受けてきた研修などから、私は「釜石の奇跡」として有名な片田敏孝教授がよくおっしゃるような3つの原則(\*)を実践できる子ども、**自ら考えて最善の選択をして命を守れる子ども**を育成できる防災教育を考えてきました。学校教育目標が「自ら考え、自らの力で生きる子どもを育てる」としていることに通じます。

おそらく、私たちがこれまで受けてきたような避難訓練では、そういう自分で考えて行動するという力は付きません。教師主導の訓練が多く、子どもたちが自分で考えて最善の行動を試すような訓練ではないからです。今後どのような避難訓練をすべきか、職員とともに考え早急に実践してまいります。

(※3つの原則：①想定にとらわれるな②その状況下において最善を尽くせ③率先避難者たれ)

## 津波の時はどこに避難する？

本校は海拔2.3mの場所に位置し、しかもすぐ隣が新井田川という津波の際は不安な場所に立地しています。自治体が作成したハザードマップ上は、「要避難地域(浸水1m未満)」となっています。ですからハザードマップを信用すれば、津波の際は「校舎2階に避難」で十分安全が確保されると思われます。



### 仙台高裁判決の要点

校長らに必要とされる知識や経験は住民の平均よりはるかに高いレベルでなければならない」とした上で、「詳細に検討すれば、大川小が津波浸水予想区域外だとしても、津波の危険を予見することは十分できた」



しかし、先日の大川小判決が示す通り、「ハザードマップは、本来は一つの指針に過ぎず、必ずしも絶対的な情報ではない」と考えなければいけません。したがって、ハザードマップを超えるもっと最悪の想定を考え訓練をしておく必要があります。たとえば、短時間で避難可能と思われる海晏寺付近の高台(海拔約13m)や、そのもうちょっと先の情報プラザビル6階などです。今後、そのようなことも想定した訓練を進め、子どもたちが自分で最善の方法を考えて行動できるようにしていきたいと思っています。もちろん、災害は学校にいる時だけ起こるのではありませんから、普段の生活やどこかへ出かけている時もそういう行動が取れるよう、保護者の方と共に子どもたちの危機回避能力を高めていきたいと考えています。

ちなみに、今日の避難訓練は大失敗でした。どこがダメで私に叱られたのか、そしてどんな点を子ども自身反省したかはお子様にお聞きください。ただ、こういう失敗があるから改善したり向上しようとしたりするんですが……。



## 酒田まつりと学校

浜田小学校は、学校の授業の一環として「酒田まつり」に参加しています。地域の行事に参加するということ、日本の伝統的な文化に触れるということはとても価値あることだと思います。

しかし、これはPTAの行事ではなく（ご協力はたくさんしていただいておりますが）、学校の「授業」です。「酒田まつり、おもしろかったの～」だけで終わるような学習ではダメだと考えます。となると、学習上のねらいが無ければ、子どもたちの中に「学び」として成立しません。また、当然ですが、当日だけが「酒田まつり学習」ではありません。中には、先月からお囃子や太鼓の練習を続けている子どももいます。もしかするとこれからまつりグッズ作りに取り組む学年もあるでしょう。

酒田を元気にするためには“かけ声”をがんばろうと、その練習に取り組む子どもたちもいることでしょう。

子どもたちなりに考えて、自分たちで準備して、酒田まつりに参加し、盛り上げてきてくれたらなあと思っています。

保護者の方々、地域のみなさまには当日もご協力よろしくお願いたします。



新年度になり、早いもので1ヵ月半が過ぎようとしています。特に高学年の児童を中心に、一生懸命「浜田丸」という船を漕いでくれていると思います。

そんな中、先日とてもうれしい電話が学校にありました。

子どもたちが下校している時のことです。おそらく低学年の子どもたちだと思いますが、そのグループが細い小路を渡ろうとしたらちょうど車が来ました。子どもたちは立ち止まったのでしょうか。そして、その運転手の方は子どもたちに道路を渡るよう促したのだと思います。道路を渡り終えた子どもたちは、その自動車に向かって「ありがとうございました」と頭を下げてお礼を言ってくれたということでした。それに感激した運転手の方が、わざわざ電話でお知らせしてくれたのでした。

また、駅東のロータリーの横断歩道を渡る子どもたちも、そこに立っている交通指導員さんにいつも元気な「おはようございます」を言ってくれます。また、この子どもたちはそれだけでなく、渡り終えた後、必ずといっていいほど「ありがとうございました」も添えてくれるのでした。

小さなことではありますが、こんな「感謝」の言葉を添えられるということも他者意識の高まりと見ることができます。たくさん子どもたちが、そんな姿を見せたり言葉を言えたりできるよう働きかけを続けたいと思います。保護者・地域のみならず、みなさんからもお力添えをいただければ幸いです。



## ちょっと気になる子どもの姿

上記のように、誰かに気を配ったり役立とうとしたりする、そういう子どももいるのですが、ちょっと気になるお子さんも見受けられます。

今回は「靴をそろえる」ということについてお話します。

学校の昇降口だと、たいがい靴は揃えて入れなければうまく靴箱に入りませんので、ほとんどのお子さんは靴を揃えて入れています。しかし、別の場所だと、脱ぎっ放しというお子さんが多いように思います。案外、脱いだ服もぐしゃぐしゃに机に置くか袋に突っ込んでしまう……そんなお子さんです。

たいしたことではないかもしれませんが、こういう「しつけ」がちゃんとされてきたお子さんと、そうでないお子さんとは、将来大人になって働いた時の年収が、なんと86万円も違うというのです(「学力の経済学」中室牧子著より)。研究の際は4つのしつけ(うそをつかない、他人に親切にする、ルールを守る、勉強をする)に注目していたようですが、こういう「しつけ」をきちんと身に付けているお子さんは、きっと自分の心や行動を制御できる大人に成長していくのだと思います。

みなさんのおうちでも、何か小さなことからでいいので、自分の心を整えることができるような働きかけをしてみてもいいのではないでしょうか。

